

地方衛生研究所における 検査体制



国立感染症研究所
ウイルス第3部第1室
駒瀬勝啓

H21.9.9 麻しん対策推進会議

麻しん排除の定義(WPRO)

- 適切なサーベイランスのもとで、常在性のウイルスによる麻しん症例が12ヶ月間以上ないこと

要件

- | | |
|------------|-------------------------------------|
| 1. 麻しん発生率 | 年間人口百万人あたり1人未満 |
| 2. 流行の規模 | 10人未満の流行が80%以上 |
| 3. 麻しんウイルス | 常在性ウイルスによる流行がない |
| 4. ワクチン接種率 | 2回接種ともに95%以上
(人口の95%以上が免疫を持っている) |

適切なサーベイランス(WHO)

- 全数報告制
- WHO に認定された組織による実験室診断
(National Control Laboratory (NCL): 感染研)
- 麻しんIgM抗体測定 (ELISA法)による診断

Indicator to Monitor progress towards Measles elimination (WPRO)

- Measles incidence <1/1,000,000
- High quality surveillance
 - 国家全体のレポートで 麻しん疑い例の報告 $\geq 2/100,000$
 - 地区報告: 麻しん疑い例の報告 $>1/100,000$ $\geq 80\%$
 - 疑い例届出後、48時間以内に適切な情報の報告 $\geq 80\%$
 - 疑い例のうち適切に血液サンプルを採取したもの $\geq 80\%$
 - 7日以内にラボ診断の結果がでたもの $\geq 80\%$
 - outbreaks 時にウイルス分離のための適切な検体の採取 $\geq 80\%$
- High population Immunity
 - 1回、2回目ワクチン接種率 $\geq 95\%$
 - outbreak 時の患者数 < 10 例 $\geq 80\%$
 - その土地固有のウイルス No virus

日本の麻疹診断の現状

- 臨床診断が多い(～40%)
- 検査診断のほとんどが検査センターによる
(NCLによる精度管理を受けていない)
- 検査方法は抗体検査(IgM 値測定)

IgM ELISA法による診断の問題点

- 発熱～発疹出現直後では麻疹IgM抗体 が十分に上昇していない事がある
- パルボVB19,HHV6等の発疹性疾患の原因ウイルス感染者の検体でも陽性(判定保留)となることがある
- IgM 測定用検体である血清はウイルスの遺伝子型を同定するための検体としては不適當
- 結果がでるまでに時間がかかることがある